September 2010

千里地理通信

関西大学地理学研究会会報　第63号
河野通博先生追悼号

Newsletter of Geographical Institution, Kansai University

Contents

Pages 1～2 ····
河野通博先生追悼号

Page 1 ·····
巻頭言
河野通博先生を偲んで　橋本征治

Page 2 ·····
河野通博先生の御逝去を悼んで　福沢清司
河野先生の死を悼む　中島　茂
先生の教え　三木剛志
河野通博先生と本　三木理史

Page 3 ·····
学窓から
あぁ，素晴らしき学問　河野　茜

卒業生だより
地理学って素晴らしい　森本英揮

Page 4～5 ·····
研究ノート
戦前期京都の土地区画整理事業と都市形成　上野　裕

Page 6 ·····
卒業生・修了生名簿と論文題目

卒業生の活躍

Page 7 ·····
バス一泊巡検報告
長野県天竜峡・飯田市　佐々木幸枝

Page 8～9 ·····
今後の研究会行事

教室だより

平成21年度会計報告

訃報

Page 10 ·····
随想
英国カントリーサイドの生活　塩路有子

河野通博先生を偲んで

橋本　征治

去る5月19日，河野通博先生がご逝去された。享年90歳であった。

河野通博先生は，1949年に京都大学地理学教室の助手に就かれ，1950年に岡山大学に移り28年間にわたって教育・研究に活躍された。そして，1978年4月に関西大学に赴任し，1990年3月に退任されるまで12年間にわたって関大地理の発展にご尽力頂いた。

先生の研究分野は，『漁場用益形態の研究』（学位論文，1962年）に代表される漁業地理学，『光と陰の庶民史－瀬戸内に生きる人々－』(1991年）に凝集された瀬戸内研究，差別・部落問題や環境問題など人権や環境に関わる研究，中国研究などと，その関心は幅広く，その眼差しは鋭く，その考察は深い。そこには，人間の生の営みに対する先生の深い信頼の念が脈々と流れ，暖かい心が息づいている。そうした姿勢は，本通信で地理学そのものの在り方について論じて，「分断」の思考よりも，総体としての人間の生き様を捉えようとする「総合化」の道を示されたことに通じよう（「総合化と専門化」，第11号，1984)。この思想は，末尾至行先生の退職を機に関大地理学教室が30年間にわたって育んできた研究者たちの論考を編んだ『地理学の諸相－「実証」の地平－』（関西大学地理学教室編，1998）の「はしがき」において筆者が記した関大地理学教室に脈々として流れる「実証の精神」と相通じる。まさに，その意味からも河野先生は関大地理学教室のバックボーンをしっかりと支えて頂いたといえよう。

個人的な思い出を一，二，記させていただこう。去る6月14日に高槻市芝谷町にお住まいの秀子夫人の許を家内共ども弔問させていただいた。木庭さんご夫妻もご一緒された。その際に積もる思い出話がこもごもに取り交わされた。先生は調査研究，学術交流，講演と中国をしばしば訪問された。現地調査では，随分と奥地にまでも行かれたようで，ある年には調査で移動の際に乗っておられたバスが転落し，脚の骨を折るという大事故に遭われたことがある。帰国後暫くは歩行に不自由をされたが，持ち前のヴァイタリティで，早い段階で復帰され，大学へも出講されることになった。先生のお宅は拙宅と比較的近かったものだから，しばらくの間は小生が車でお迎えにあがって大学までご一緒させていただいたことがある。その際には，奥様も大学まで同道され，授業が終わるのを待って，付き添って一緒にお帰りになった。奥様は，今も当時のことを良く覚えておられて，弔問した際にも懐かしそうにお話になった。小生にとっても，道すがらしばしの会話を楽しませて頂いた心和むひと時であった。それは先生の親しみやすく和やかなお人柄の然らしめるところであったと思う。

本通信でも触れたことがあるが（「隣室の恵み」，第22号，1990年)，たまたま研究室が隣り合っていたものだから，しばしば小生の研究室で昼食を共にさせて頂いたり，ティーブレイク時にはコーヒーや紅茶を淹れて一緒にいただきながら，四方山のお話を聴かせて頂いた。それは，中国各地を巡られた際のこぼれ話であったり，パナイ島調査の話であったり，お若い頃から壮年にかけて瀬戸内を主舞台に八面六臂の活躍をされた頃のさまざまな苦労話やエピソードであったりと，大いに刺激的で，触発されることの多いひと時であった。時に，教えを請うたり相談をさせて頂いたこともあった。その際によく「このことは考えておいて頂戴よ，ヘェ！」と言われた。それは，「これは大事なことだから自分でよく考えなさい」という強いメッセージであった。そのように受け止めさせていただいたことが印象深い。

奥様から安らかに永眠されたと伺い，寂しい限りではあるが，まさに天寿を全うされたと思う。感謝の念を込めて衷心よりご冥福をお祈りしたい。

（本学名誉教授）

河野通博先生の御逝去を悼んで

福沢　清司

私が河野通博先生に初めてお会いしたのは，1978年の西日本漁業経済学会（現在の地域漁業学会）の長崎大会でした。当時，岡山大学の河野先生は当学会の会長で，私が指導を受けていました藪内芳彦先生が事務局を引き受けておられました。私は事務局の手伝いもさせてもらっていましたので，その関係で，大会前日の打ち合わせ時に紹介していただいたのでした。緊張していて「よろしくお願いします。」と話すのが精一杯でしたが，「こちらこそ，いつも御面倒をおかけしてすみません。」と丁寧な口調でねぎらいの言葉をかけてもらいました。その腰の低さにたいへん恐縮したしだいです。翌年から直接指導を受ける機会を得ましたが，常に弱者の立場で問題意識を持たれ，驕りや不正を許さない真摯な研究姿勢には感銘を受けるばかりでした。私も教育現場で，弱者の立場を生徒の立場に置き換えて働きたいと，教訓とさせてもらっています。これまで賜りました学恩に深謝しますとともに，御冥福を心よりお祈り申し上げます。

（1979年度大学院修士課程修了，大阪府立茨木高等学校教諭）

河野先生の死を悼む

中島　茂

岡山大学入学以来のわが恩師，河野通博先生の訃報に接したのは，亡くなられた翌々日，5月21日の経済地理学会大会会場においてであった。関西大学へ赴任されたのは1978年4月，私が大学院に入学した同じ年で，その前年の冬に関大大学院へ入ることになった報告のため，岡大の河野先生の研究室へお邪魔した際，「僕も関大へ行くことになった」と仰って，びっくり仰天したことがつい昨日のことのように思い出される。

当時の法文研究棟新館3階，一番奥の部屋が河野先生の研究室で，段ボール箱に埋め尽くされた部屋での再出発であられた。河野先生の気さくな人柄は，関大へ来られてからも岡大時代と少しも変わることなく，すぐに地理学教室の先生方，学生たちの信望を得られた。ご定年を迎えられた1990年の『千里地理通信』第22号をひもとくと，先生の笑顔とともに，懐かしさと20年の時の流れを改めて痛感している。突然の訃報に，未だに信じられない気持ちの中，唯々ご冥福をお祈り申し上げる。

（1991年度大学院博士課程学位取得，愛知県立大学教授・関西大学非常勤講師）

先生の教え

三木　剛志

在学中は，よく怒られたことに尽きる。過疎がすすむ島や山村の将来展望を厳しく問い質された演習。島での現地調査の不備を追求された卒論の試問。専門外知識の稀薄さを咎められた院試……。

そんな未熟者が先生からお電話を頂戴したのは，進路を決めかねていた秋のこと。昭和二十年代の対馬調査以来，長く関係を保たれていた離島振興の団体が職員を募集しているので応じてみよという。先生から送っていただいた書類を見ると締切をとうに一カ月ほど過ぎていたが，どこを見込まれたのか採用されることとなった。以来，二十年近くにわたって島が抱える諸問題と関わっているものの，単に調べれば済むというものではなく，島側の眼線で，その結果をいかに政策に反映させるかをつねに問われている。

先生が伝えようとしていたのは，地域と向き合う者の志や姿勢そのものだったのだ――瀬戸内海の現場を長年歩き続けて来られた先生の『光と影の庶民史』を折に触れて読み返しながら，あらためてそう実感している。

（1991年度大学院修士課程修了，財団法人日本離島センター職員）

河野通博先生と本

三木　理史

ゼミでの居眠りに，研究室での隠れタバコ（もちろん先生の）…，と話題に事欠かない先生だが，やはり私にとって河野先生といえば本である。中国語文献の講読で実に7年間お世話になり，個人研究室への立ち入りも黙認して頂いたおかげで，先生の留守中に個研の蔵書をずいぶん拝見した。その蔵書探検が，現在の私の地理学的基礎をつくっていることは間違いない。なかには開けた形跡さえないものもあったが，先生のご専門領域とかけ離れたものまで，幅広く収書されているのに驚きつつ，至福の時を過ごしたことを思い出す。

私の修士課程修了と同時に退職された先生は，院生に希望の蔵書を下さり，それはいまも私の書架に並んでいる。その後中国関係の蔵書を現勤務校の図書館にも寄贈して頂いた。その引き取りにお宅へうかがうと，新たに注文された書籍を届けに来た宅配業者が入れ替わりに出ていったこともあった。そのバツ悪げなお顔を偲びつつ，ご冥福をお祈りしたい。

（1991年度大学院博士課程後期課程中退，奈良大学文学部准教授・関西大学非常勤講師）

■ □学窓から□ ■

あぁ，素晴らしき学問

河野　茜

私の地理学教室との出会いは，友人に誘われて履修した授業“知へのパスポート”であった。授業のメインは鶴橋へのフィールドワークで，その日は朝から約6時間は歩いただろうか。学生達のテンションは低くなる一方だったが，先頭を行く人物だけは軽い足取りで歩いていた。その人物の正体は，野間先生である。友人は「絶対イヤ！」とこぼしていたが，私はこの時，地理学の虜になり始めていた。

単なる風景に過ぎない町並みも，地理学者にとっては，土地利用の様子，川の流れなど，歩けば歩くほど面白い絶好の勉強の場である。行動派の私にとって，外へ出て冒険しながら勉強ができるなんて，なんと素晴らしい学問なのだろうと感じた。そして，何でも知っている百科事典のような野間先生の世界にハマってしまったのである。そして現在，私は野間ゼミに所属し，ゼミ生全員で和歌山へ行ったりと，理想のゼミ生活を満喫している。

地理学は街歩きだけでなく，現地の人と話をするのも重要で，人見知りであった私を成長させてくれた学問である。3回生の時，地元の農産物直売所の研究で，市役所の職員の方や産直施設の社長にアポをとって話をお聞きし，その結果をゼミで発表した。しかし，実際行動に移すまで一ヶ月ほど悩み，やっと勇気を出して取材したのである。それぐらい私は人見知りなのであった。この経験のおかげで，奄美大島での実習調査でも現地の方と気軽にお話をすることができ，日常生活においても，自分から行動に出て人と話せるようになった。

卒論では，文献や資料はほとんど無く，最低でも20名から聞き取りしなければ研究にならない内容を取り扱うことになっている。これは，親戚のおじとさえまともに話せなかった昔の私には，到底考えられなかったことである。これはまさに私の根性試しとなるだろう。地理学の集大成としてだけでなく，人間として成長した私を発揮した卒論にしていきたい。

（本学4回生）

■ □卒業生だより□ ■

地理学って素晴らしい

森本　英揮

卒業から4年以上，自然地理ゼミにて，ゼミ生数人で先生の車に乗せて頂き，春や秋に茨木市の山間部に出かけたり，地理学実習のフィールドワークに行ったりしたことが早くも懐かしく思い出されます。また，“地形発達史”を研究テーマとしていた私は，空中写真判読で地形を眺めることが特に好きになりましたが，のびのびと研究させて頂いたのが，学部と修士課程合わせて6年間お世話になった地理学教室でした。大学院を卒業し，大阪は「糸へんの街」堺筋本町近辺の小さなソフトウェア会社に就職したことがきっかけに，現在はデータベースソフトウェア会社のGIS事業部に勤務し，法人向けのソフトウェアの開発に関わっております。「大学で測量学やGISを教えてもらっていてよかった…」そう思ったのは，職場で自社GIS製品のマニュアルに載せる専門用語の確認作業を任されたときでした。マニュアルには，“測地系”，“回転楕円体”など測量関連の難しそうな専門用語が並んでいます。その使用方法が間違っていないかをチェックする業務でしたが，卒論を書くために触ったGISで学んだことや，毎週3コマの野外での測量実習で学んだことが活用でき，なんとかやり遂げることができました。また，最近の業界動向として，官公庁向けのGIS市場はどちらかと言えば縮小傾向にあります。その為，より導入にはシビアな民間企業にGISを利用してもらい，その導入効果をあげるにはどうすればよいかということがビジネス上の一つの課題となっていたりしますので，地理学的な発想からそのような課題に挑むことができるのかもしれません。と，そんなことを考えながらも，仕事の合間にはモニタに映る日本列島を眺めて気分転換をすることもできますので，地理学って素晴らしい！と思います。

（2005年度博士課程前期課程修了 アイエニウェア・ソリューションズ㈱）

新入会員紹介

荒巻祐貴
旅行が大好きで地理の勉強も好きだったので地理学専修に入りました。これからが楽しみです。よろしくお願いします。

伊地智遥
地理学・地域環境学という同じ志を持った人たち，とても愉快な先生方，これからのことを考えるととても楽しみです。不束者ですが，よろしくお願いします。

今林　晃
福岡県出身で陸上部に入っています。地理の知識を深めたいと思います。よろしくお願いします。

入江真史
美術部に所属しています。ちょくちょく展覧会あるので見に来てください。文化系ですけど運動大好きです。誰か剣道しましょう。みんなで騒ぐのも好きです。

梅田真吾
ワンダーフォーゲル部に入っているので年中，山に登っています。全国各地の山に行くのでいろいろな町に行っています。もっと旅したいです。

江口花菜子
高校の時から地理に興味を持っていて，この専修を選びました。たくさんの人と話して関わっていきたいです！よろしくお願いします。

++研究ノート++

戦前期京都の土地区画整理事業と都市形成

上野　裕

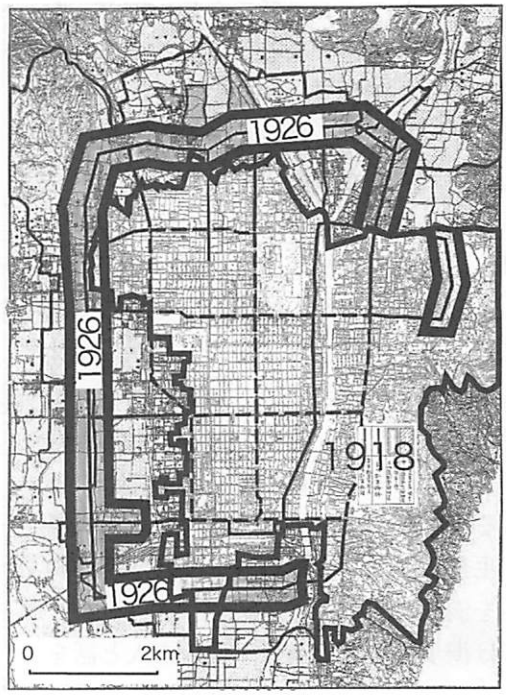
1. はじめに

都市計画法は都市発展の方向性をコントロールすることを目的に1919年に制定された。

1910年代から都市への人口集中による居住環境の悪化や市街地の無秩序な拡大が顕在化しその対応策が求められていた。それまでの近代産業の育成，教育・研究，医療機関などの創設と軌道敷設を伴う主要街路の拡幅など産業インフラを柱とした，いわば施設（点）と街路（線）から周辺町村を含む面的な都市づくりへの転換である。こうした中で，同法の土地区画整理事業は整然とした宅地開発を推進する政策として多くの都市で取り組まれ，新たな市街地あるいは当時の郊外を創りだし，近代の都市形成において重要な役割を果たした。京都の場合もこの事業によって創出された地域は，都市内の良好な住宅地として今日に引き継がれている。ここでは，歴史的都市京都の近代都市空間形成における土地区画整理事業の導入プロセスとその役割について検討し，さらに近代都市の継続性と独自性にも言及したい。

2. 郊外の住宅地化と土地区画整理事業

戦前の郊外の住宅地化は大きくは3つの住宅形態よって進められた。第一は1910年代から始まる新中間層向けの住宅地形成で衣笠園，南禅寺旧境内の別荘地化，下鴨下河原町，北白川小倉町などからなる。主に北部の高燥地と東山麓に形成された。二つ目はこれと対称をなすほぼ同時期に始まった京都市の西，西南部（朱雀野村，大内村など）の郊外化である。低地で工場が多く集まり，かつ地方税が低く京都市に隣接する町村ということで急増する工業労働者などを受け入れる簡易住宅が建設された。そして三つ目が1925年から始まる土地区画整理事業による新たな郊外住宅地域の形成で，北部および旧市街地を取り囲むように市区改正街路（1918年計画）沿いに計画的に形成された（地図参照）。新たな郊外空間形成において，前二者に比し規模と計画性という点でその果たした役割は大きい。



1918(大正7)年　編入前の京都市域　3大事業街路
1918(大正7)年　編入後の京都市域　市区改正街路
1926(大正15)年　土地区画整理区域

図1　1918年以降の市域拡大と土地区画整理地区

3. 土地区画整理事業の導入タイプとその空間的な特徴

この事業は，都市計画法12条のもとで組合を結成し施行するのが一般的であるが，京都ではそのタイプと同13条の都市計画事業として施行するタイプが併存し，かつ後者は京都市助成のもとで組合を結成した地区と結成できず市による代執行の地区に分かれる。すなわち①12条の組合施行，②13条の組合施行，③13条の市代執行の3タイプからなる。これらの分布，組合結成の可否，施行規模には地域性をみてとることができる。

①は住宅地に適した洛北の高燥地で明治末頃から住宅需要のあった地域で，組合の結成と農地の住宅地化が順調に進んだ。3.1～65.5 haで平均22.3 ha。②は都市計画事業の北大路通と西大路通でみられる。北大路通は2地区を除き組合が結成され，①の地域と一体化した住宅地

となる。西大路通で組合結成されたのは大地主からなり耕地が広く残っている西南部に多い。12.4～137.1 ha で平均 57.6 ha。③は主に西大路通の地区で施行規模が大きく土地所有者も多く減歩や換地に時間を要した地区である。高野川沿いの地区も同様である。北大路通の 2 地区の場合はすでに市街地化が進み組合結成が難しかった。しかしこの代執行によって再開発事業が行われたともいえよう。14.9～80.5 ha で平均 54.8 ha。

土地区画整理事業の街区パターンは，基本的にはいずれの地区も東西方向の長方形で近世までの方格街路を継承しつつかつ陽当たりを考慮し設定されている。これは平安京や海外の都市計画を参照にした「京都市都市計画敷地割調査報告書」（1923 年）に基づき，かつ東部および北部の住宅地区では東西 50～70 間，南北 25～30 間，西部工業地区は東西 40～70 間，南北 40 間，南部工業地区は同 60～80 間，同 50～60 間と用途地域に応じて街区基準も設定されている。

また，これら事業の導入において，京都市は都市計画の意義について広報活動を積極的に展開した。日出新聞には平安京以来の都市発展，土地区画整理事業の重要性と具体的な変化について連載し，都市計画展も 10 日間（1926.9/21～9/30）にわたり大丸百貨店で開催した。ここで強調されているのは京都の持つ歴史性と都市更新の止揚である。

4. 土地区画整理事業の導入と地域変化

1）全体の動向

事業導入によって洛北地域では新築住宅の建設とともに人口も増加し住宅地化が進んだ。工場の立地する西部，西南部では導入以前からの人口増加が継続しているが，必ずしも新築住宅の洛北ほどの増加はみられない。住宅を求めての転居と仕事を求めての転居の違いとみてとれる。また市の代執行地区の場合，前述したように施行規模が大きく換地に時間がかかり換地処分の完了が戦後さらに 20 年近くを要した地区も多い。

2）「洛北地区」と「西第一地区」の事例

洛北土地区画整理組合は 1927 年に 57 名の組合員によって結成され 31 年には換地処分も完了し早くから住宅地の建設が始まった。府立植物園の東に広がる 25.4 ha からなるが，開発当初より「東西線に対しては平屋の部分は一間以上，二階建ての部分は二間以上後退せしめて新築」という規程を設けるなど良好な住宅地を創りだしていった。ちなみに分譲価格は市街地の 2 倍程度であった（坪単価 31～54 円，98～115 坪）。

「西第一地区」は西大路通に面する地区で，1928 年には組合を結成したものの 3 年後には解散し京都市の代執行で区画整理が実現した。組合員は 205 人に及び換地等の調整ができなかったことによるとされている。この地区は最初の用途地域では工業地域に指定されているが，区画整理によって土地の価格が高騰することで商店や住宅が入り込み，住商工の混在する地区になっていった。大正，昭和初め，多くの都市は工業都市をめざし広範囲に工業地域を指定したが必ずしも工場の集積と対応するものではなかった。この地区の場合も戦後は「準工業地域・準商業地域」となっている。また，都市計画事業として強制的に結成された組合は，事業に対して受動的でかつ権利主張が強く工事着工も遅れることが多い。

5. 小結

土地区画整理事業は 1920 年代の人口急増と市街地拡大に対して秩序ある市街地化を創出した。その導入，実施プロセスは組合施行と市代執行によるが，北部の組合施行は組合結成と換地完了まで短期間で行われ，かつ厳しい建築条件が今日まで続く北部の良好な住宅地の基礎をつくった。工業地域（用途地域）のもとで区画整理が導入実施された地区は，本来の工場の立地にとどまらず住宅や商業機能も立地し，住工商の混在地域となり今日に至る。区画整理が土地の価値を高め地価負担力の低い工業以外の機能が進出したことによる。すでに人口増加，住宅の集積する地区はこの事業が再開発的な意味をもつ。

この事業の源をなす「京都市都市計画敷地割」は平安京という歴史を意識したもので，また都市計画を実施するにあたり，行政側は新聞などを通して近代都市づくりが歴史都市を踏まえたものであることを強調し実施した。

（うえのひろし　関西大学大学院 文学研究科博士課程後期課程）

参考文献

鶴田佳子・佐藤圭二，近代都市計画期における京都市の市街地開発に関する研究．日本建築学会計画系論文集 458　1994

中川理，都市計画事業として実施された土地区画整理．丸山ほか編『近代京都研究』思文閣　2008

石田潤一郎，郊外の発見．高橋・中川編『京・まちづくり史』昭和堂　2003

奥野晶士
プロ野球を見るのが好きです。オリックスと阪神を応援しています。お笑いも好きです。ブラマヨとサバンナと千鳥が好きです。よろしくお願いします。

角野麻莉子
私は，日本や外国のいろんな地域を知ることが好きでこの地理学専修に進ませて頂きました。まだまだ分からないことが多いのでいろいろ教えてほしいです。これからよろしくお願いします。

貴志健司
大阪の岬町に住んでいます。海と山が両方あって，とてもいいところです。ぜひ訪れてください。

小池清訓
はじめまして。人見知りが激しいので声をかけてもらえれば嬉しいです。まだまだ新米なので，いろいろとご迷惑をおかけするかもしれませんが，よろしくお願いします。

坂元由梨
地理学専修に入って今までなかったような経験をたくさんできたらいいと思っています。これからよろしくお願いします。

新沖広正
自転車が大好きで，どこかに行く時は必ずと言っていい程自転車に乗っています。自転車であちこち走り回って資料集めをしようと思います。

卒業論文・修士論文・課程博士論文一覧（2010年３月卒業・修了生）

◆2009年度卒業・修了一覧

〈卒業論文〉

逸本茉莉子　中山間地域における観光りんご農園の展開－山口県阿東町を事例に－
大竹かおり　JR高槻駅周辺の景観変化と交通
重村　昌利　工業都市尼崎の形成と発展
篠田　善典　高知県における皿鉢料理の文化地理的考察
宿利　広和　日本に見られる自転車利用の実態
玉置奈都子　奈良県十津川村の観光振興－新たな方向性をめざして－
大長　和代　徳之島の民俗文化と聖地－徳之島町下久志・井之川を事例として－
豊田有加里　国際観光都市「奈良」の現状と今後の展望
西口　千絵　堺における『和菓子』文化の成立と変容
林　依澄　混住化社会の形成とコミュニティの変容
廣田　琢也　近畿圏中小私鉄の現状と課題－和歌山電鉄・伊賀鉄道などの比較を通して－
堀口　美紗　高知城下町における絵図の表現方法とその分類
牧野　有紗　和歌山県田辺市・新宮市における熊野詣の観光的側面
増田　妃　道の駅の分類と新しい機能の提案
宮本　直也　広島市中心部の公共交通機関の現状と課題
吉井　悠　松屋町筋の変遷－土地利用変化を中心として－
渡邉　瑛子　東山魁夷の自然観－魁夷と自然の関係性を神経質で不器用な表現方法から捉える
董　振江　遼河デルタにおける稲作農業の導入と進展
吉田　峻輔　エスカレーターからみる東西の歩行習慣の実態－三重県内の近鉄電車を事例に

〈修士論文〉

叶　晨　北摂茨木市域に見られる明治中期以降の植生変遷
松田　玲　西宮市の境界領域性と地域構成に関する文化地理学研究－北部旧有馬郡域の事例を中心として－
松井　僚平　沖縄県北部3地区における琉球村落の風水景観要素の考察
東出　修一　「装置」としてみる日本の海外旅行－制度・仕組・実践－

〈課程博士論文〉

芦田　淳一　摂津国総持寺を中心とする歴史考古学的研究

◆課程博士論文（2010年度春学期修了）

堀内　千加　日本の大都市における人口と住宅の地域的動向に関する地理学的研究－1990年以降を中心に－

■卒業生の活躍

教室の卒業生である3名が，新刊書を刊行されました。

◈三木理史著；『都市交通の成立』日本経済評論社　2010.2　345 p.

本著は，都市交通の形成について，都市交通の領域性，旅客輸送の大量化，都市交通における物流の3点から分析した。大阪市と周辺地域を事例に，歴史的視点に立ち，都市交通問題の解決への論点を再考する。以下に目次を示す。

序章「都市交通」の概念的成立　第1章　都市交通の萌芽と領域性　第2章　戦間期の都市膨脹と交通調整　第3章　交通調整の戦前・戦後と都市交通審議会　第4章　「通い」の成立　第5章　「都市鉄道」の成立　第6章　旅客輸送の高密度化と「都市鉄道」　第7章　戦時体制期と「都市鉄道」の展開　第8章　都市交通と社会資本の利用分担　第9章　戦前期の石炭消費と都市内輸送　第10章　生鮮食料品輸送と中央卸売市場の成立　終章「都市交通」の成立。（奈良大学文学部准教授）

◈松原光也著；2010.『地理情報システムによる公共交通の分析』多賀出版　2010.3　301 p.

本著は，交通体系と土地利用や施設配置等の関係をGISを用いて分析し，地方都市の公共交通，各都市のまちづくりの実態と今後の課題について考察したものである。以下に目次を示す。

第1章　地理情報システムによる交通体系の可視化と交通政策の立案支援　第2章　公共交通と都市構造の課題　第3章　地方都市の分類と地方都市の交通実態－交通地域区分と都市の集約度の分析から－　第4章　万葉線第三セクター化による高岡のまちづくり　第5章　福井トランジットモール実験を契機とした公共交通に対する評価の変化　第6章　富山市の都市機能配置とライトレール　第7章　地方中核都市金沢における都市政策と公共交通体系の課題－LRTシステム導入の効果に関するシミュレーション結果を加味して－　第8章　公共交通の費用便益分析と支援制度に関する考察。（京都大学大学院工学研究科助教）

◈大槻恵美著；『風土に生きる・場所に生きる－地域の変容と再編成に関する地理学的研究』ナカニシヤ出版　2010.8.1　334 p.

漁業を通して自然と向き合う琵琶湖の漁村，都市化とともに変容する生駒山麓の近郊農村，住宅都市宝塚の市民によるまちづくり，それぞれの風土や場所で生きる人びとの営みを通して人間と環境の関係を考える。以下に目次を示す。

序章場所と「風土」　第1章　「風土」としての自然－琵琶湖漁村における開発と環境　第2章　都市化する近郊農村という場所と暮らし　第3章　都市における場所への関わり方　終章　「風土」と場所とそこで生きる人々。（本学非常勤）

■ □バス１泊巡検旅行□ ■

長野県天竜峡・飯田市

佐々木幸枝

大型バスが溢れるほどの学生と教授が一路，長野県飯田市を目指しました。5月29日，30日，私たちは一泊巡検をしました。途中バスで，各地域について調べた事柄を一人一人発表しました。教授2人につっこまれながら，近況と期待を胸にバスに揺られました。車窓から観える景色は普段目にすることのないもので，それは車で一杯の港であったり，続く田園地帯や，かの有名なトヨタ本社などでした。

古くは塩の道として栄えた足助の町並みを見学するために，バスから降りますと，涼しげな風鈴の音と美しい自然が私たちを歓迎してくれるかのようでした。その町並みは何か懐かしさを感じさせるようなもので，人が一人通るのがやっとの小路を歩くとまるで違う時代に来たような気持ちになりました。足助では，時間が経つのを忘れるような時を過ごしました。

そして無事に宿に着き，若返りの効果があるという温泉につかり食事をとりました。その後，地元の名産のリンゴワインやその他のお酒を先生方と飲みながら楽しい夜を過ごしました。朝，起きて窓の外を見ると緑が生い茂り，空気がとても澄んでいました。地元のボランティアの方と天竜峡ウォーキングを行い，説明を聞きながら険しい道を歩きました。途中つつじ橋という天竜峡にかかる橋がありました。近くの看板にはには数々の注意書きが。私は本当に死人が出るのかと思いつつ，ワイヤーで吊るされた橋を何とも優しい先生に励まされながら無事に渡ることができました。

そして飯田線で市街地へ。市長さんの90分講義を受講させていただきました。大火に見舞われながらも，再生した飯田市。その中心に植えられているりんご並木は学生が世話をしているそうです。そのりんごを取ろうとするものなら，何処からともなく，「それは取ってはいけない」と教えてくれる人がいるそうです。柵を作らずに学生の活動を見守り，りんごも見守る，飯田市民はそのようになろう，飯田市民はそうであるべきだ，と聞かせて頂きとても印象に残りました。

その後，市街地で昼食をとりました。私は一軒の小さなおそば屋さんに入りました。そこには素敵なご主人と奥様がいて，沢山お話をして頂きました。大火に見舞われた時の写真を見せて頂き，今はビルが建ち並んでいる市街地の姿は，想像できないほど，殺伐としていました。美味しいおそばを頂きながら，「飯田は変ったよ，みんな頑張った」とおっしゃる御主人を見ていると飯田市が変わった理由が何となくわかったような気持ちになりました。

市街地を見学した後，美しく整備されたりんご並木で，全員のお手を拝借。一本締めにて，2日間の巡検を終えたのでした。

矢作川頭首工での学生による説明（5月29日）

角田静佳
京都が好きです。駅ビル大階段が特に好きです。住んでる所は京田辺です。地理頑張りたいです，宜しくお願いします。

田中優生
この専修で，物語を地理的に見ることができるようになりたいです。これからよろしくお願いします。

田邉知世
地理の知識は全くありませんが，しっかり卒業できるよう，頑張ります。色々なものを見，触れ，感じ，有意義な3年間にしたいと思います。よろしくお願い致します。

中川夏姫
“地理学はおもろいよ”と聞いていたので，これからの3年間がすごく楽しみです。知識も技術も全くありませんが，一生懸命頑張りますので，どうぞよろしくお願いします。

西井千恵
地理学について分からないことがたくさんあり，ご迷惑をおかけしてしまうこともあると思いますが，いろんなことに興味を持って頑張っていきたいと思います。これからよろしくお願いします。

日野翔太
関西大学という場所的にも設備的にも恵まれた環境下で，希望していた地理学が研究できることを大変光栄に思っております。これから3年間，よろしくお願いします。

藤森麻希
地理学を通じて成長出来たらと思います。よろしくお願いします。

松浦貴史
今年から地理学・地域環境学専修にお世話になります。大学生活の残り3年間を充実できるように，一生懸命取り組み，新しい発見ができるように頑張りたいと思います。宜しくお願いします。

松岡美佳
高校の時に地理を勉強していなかったけどこれから色々興味をもってがんばるのでよろしくお願いします。旅行に行くのが大好きなんでぜひ一緒に行って下さい。

水迫良輔
古地図を全て読んでみたいです。阪急淡路駅でアルバイトをしていますので，見かけたら指差して笑ってください。

森　羊亮
地理と野球と歌うことが好きです。このようなことが好きな方は是非話しかけてみて下さい。よろしくお願いします。

今後の研究会行事

関西大学地理学研究会事務局

1．日帰り巡検のご案内

恒例の日帰り巡検を下記の要領で実施致します。卒業生，現役学生のご参加を期待しております。

テーマ：中心性の高まる副都心千里中央，旧市街地箕面，滝道の地形と植生

日　時：平成22年10月31日（日）10時30分～16時00分（予定）

集　合：地下鉄御堂筋線終点千里中央，千里セルシー広場10：00
http：//www.selcy.co.jp/plaza_guide/guide.html

費　用：特にお願いするのは千里中央から箕面駅の間のバス代350円／人（チャーター代金），箕面スパガーデンエレベータ100円／人（最寄り駅までの往復の電車代と昼食代は各自負担）

コース：1．千里中央周辺（金融機関，交通関係）昼食もここで各自取ってもらいます。阪急バス10番乗り場からチャーターした阪急バスに12：30に乗ります。2．繊維問屋の集まる新船場，新しく開発された箕面マーケットパークVISOLA，山麓線，阪急箕面駅（チャーターはここまで），3．箕面駅前周辺にて，用水路，有馬高槻構造線，箕面旧市街地），4．エレベータチューブで箕面スパガーデンに行き千里丘陵などを眺望，戻って，5．滝道を辿って役行者ゆかりの箕面山瀧安寺を経て箕面の滝まで。地形と植生の観察。箕面の滝にて解散します。

その他：雨天決行

連絡先：御連絡は電話またはメールで廣田
（電話：080–1509–5656　e–mail：koseirap@yahoo.co.jp）まで

2．地理学研究会第97回例会（研究例会）

日　時：平成22年12月11日（土）

研究例会会場と開始時間：15時から関西大学第1学舎1号館A301教室

懇親会会場と開始時間：18時から関西大学以文館レストラン（1階生協食堂）

懇親会会費：2500円

講演　松井幸一（本学　院）：「那覇市壺屋集落における空間構造の特性」
　　國米厚臣（大阪市交通局）：「地理も積もれば『水』となる－広報紙『水ものがたり』を事例とした大阪市交通局による利用客拡大への取り組み－」
　　木庭元晴（本学　教授）：「地球温暖化システム考」

＊なお，例会の冒頭で長野県飯田市で実施する本年度の実習調査報告を予定しています。

教室だより

■学生数

平成22年度当教室新入生は，新2回生23名（男子11名，女子12名），修士課程1年生4名（男子2名，女子2名）であった。4月22日（木）には新入生歓迎コンパをフランシスベーコンで開催した。学部生67名，院生23名（文化交渉学の院生6名を加える），それに研修生の矢野司郎さんを含めると，総計91名となった。

■一泊巡検

恒例の一泊巡検は，5月29日（土），30日（日）に下記の要領で開催された。テーマ：三河高原から天竜峡・飯田へ自然・産業・歴史地理。参加学生：地理学・地域環境学実習を履修する3回生，それに，2回生，修士課程1回生ほか。集合場所と時間：29日8時集合，阪急千里線山田駅バスロータリー。コースの概略：阪急山田駅，トヨタ鞍ヶ池記念館（昼食），道の駅信州平谷，天竜峡温泉交流館（2回生他は帰路），30日天竜峡交流館出発，天竜峡見学，飯田市役所，市長講演，飯田市内見学。帰路。

引率：実習担当者(伊東・野間)。参加者数：53名。うち20名は日帰り。

■D3/M2論文中間発表会

7月21日（水）13時～17時50分まで地理学・地域環境学実習室にて行われました。発表者は，M2では佐藤ふみ，熊鴬，松田邦廣，向井浩之，齊藤鮎子の5名，Dでは松井幸一，上野裕，G. T. ハータインの3名でした。先生方や聴衆の方々からは厳しい意見や質問が出され，刺激的な発表会となりました。

■教員外国出張　2010年4月～8月

野間晴雄：①2010年8月6日～12日スリランカ野外歴史地理学研究会の海外巡検を主催。②2010年8月23日～31日ベトナムグローバルCOEプログラムによるサパ，バンドンでのフィールド調査とベトナム国家大学ハノイ校地理学部での意見交換。

■博士学位論文の提出

伊東ゼミの堀内千加さんが課程博士論文を提出し合格されました。本号の論文一覧に掲載しております。

■新刊書（教員）紹介

関西大学東西学術研究所の4年にわたる比較文化班共同研究「システムとしての文化の比較研究」の報告書をかねた野間晴雄編『文化の磁場－16～20世紀のアジアの交流史－』，関西大学出版部，2010年3月，A5判，382頁，3,360円（税込み）が4月に刊行された。アジアの16世紀から近代までを視野に入れたモノ，ひと，出来事が産み出す場の交流史に関する歴史学・地理学者12名の研究論集。外世界であるヨーロッパ・アフリカ・アラブとの邂逅・文化接触と，日本を含めたアジア内部の仕組みを考察する論集が刊行された。関大地理学関係者の論考としては，次の8編が所収されている。橋本征治「アジア東部におけるサツマイモ栽培の伝播」，グエン・ティー・ハータイン（野間晴雄訳）「ヨーロッパ人のベトナムにおける貿易－平和から戦争へ：16世紀～19世紀－」，チャン・アイン・トゥアン（野間晴雄訳）「紅河デルタ干拓の歴史地理－形成と変容－」，野間晴雄「アジア「日本町」のかたちと交流史」，野間晴雄「18世紀後半英領インドにおける地図作製事業とレネル－「帝国」と地図のポリティックス」，吉田雄介「ケルマーン絨毯というブランド－19世紀末に生じた世界商品への成長－」，水田憲志「1930年代の石垣島における台湾人農業移民の入植過程」，松井幸一・野間晴雄・高橋誠一「壱岐における触と在の村落形態と交流」

■民間製図家の森三蔵氏の新刊

本学で地図学の非常勤講師として長年出講いただいた，民間製図家の森三蔵さんが，白寿（99歳）の記念にとして，『一点一描』を自費で，ご子息で森図房を主宰されている著名な製図家の森三紀さんの尽力で刊行された。京都郊外での生い立ちから，弟子修業時代，独立，北京での仕事や，戦後の自治体史の地図作成，地理教科書の地図などをてがけられた一生を貴重な写真や地図とともに綴られた三蔵氏の軌跡は，そのままに日本における製図の歴史ともいえる貴重なものある。パソコン地図全盛の現在，職人芸の一端と地理学の深い関わりを考えさせる読み物である。なお，森図房で製図した貴重な手描き原図は，京都大学大学院人間・環境学研究科の地理関係研究室に寄贈され保管されるとのことである。

■寄付金へのお礼

末尾至行先生より地理学研究会に1万円のご寄付をいただきました。研究会の活動に使わせていただきます。厚く御礼申し上げます。

平成21年度会計報告

〈収入の部〉	
前年度繰越金	369,798円
会費収入	133,500円
寄付	10,000円
利息	61円
計	513,359円
〈支出の部〉	
会報印刷費	46,200円
通信費	27,690円
計	73,890円
平成21年度差引残高	439,469円

卒業生の消息（訃報）

本学を1984年度に卒業された森真一郎さんが急逝されました。三重県の当初国語科教諭から社会科教諭になり，研修機会を利用して修士を取得しさらに博士号を得ている。2009年11月から人文地理学会の地理教育研究部会の世話役としても活躍されていた。

新院生紹介

博士課程前期課程

逸本茉莉子
まだ学生でいられるので，色々な所に行ってたくさんの物を見たいと思います。2年間よろしくお願いします。

喬　成立
外国人としての私は初めて関西大学に入り，複雑な気持ちと緊張感があった。慣れるまで皆様宜しくね♪

廣田琢也
"調査"と称してカメラ片手に色んな場所へ出没しますが気にしないでやって下さい。どうぞよろしくお願いします。

増田　妃
学部時代もお世話になりましたが，今年からもまたお世話になります。野間ゼミで沢山のことを吸収します。よろしくお願い致します。

文化交渉学

張　立宇
文化交渉学の新入生張立宇です。北京からまいりました。研究分野は東アジア諸地域における城門の比較研究です。研究には広い視点を注目しなけらばならないと痛感します。

張　旭
東アジア文化交渉学M1です。北京に生まれ育った私は，古都の宮殿や伝統的な建築及びそれらに関する伝説と物語に接していました。東アジアの文化の起源や伝播に深く興味を持っています。

随想

英国カントリーサイドの生活

塩路　有子

昨年，国外研究の機会を得て，英国コッツウォルズ地域北部の町チッピング・カムデンに1年間暮らした。実は，14年前にも同町で1年半のフィールドワーク調査を行った。以来，インフォーマントも多いなじみの場所である。コッツウォルズ地域は，北はシェークスピアの生誕地で有名なストラトフォード・アポン・エイボンから南は世界遺産の街バースにいたる160 kmに広がる丘陵地帯である。なだらかな丘に麦畑や牧草地が広がり，ところどころにこんもりとした林や森，小さな町村がある。畑や牧草地の間には石垣やブラックベリーなどの植物による生け垣があり，大地が縫い合わされたパッチワークのようにみえる。典型的なイングランドのカントリーサイドの風景である。

コッツウォルズ地域は，ロンドンやバーミンガムなどの都市からのアクセスもよく，「退職したらカントリーサイドの小さなコテッジで庭いじりをしながら暮らす」という英国人の理想にぴったりの場所である。人口約2千人というチッピング・カムデンのような小さな田舎町にも都市から多くの中産階級の人々が移住している。そのため，都市民向けの価格設定が定着し，住宅の高騰が続いている。いまや地元の若者には到底住めない場所になり，高齢化が進んでいるのが現状だ。しかし，そうした中産階級の人々は，そこで決してゆっくりとした老後を過ごしているわけではない。都市で成功し，組織力をもち，議論にたけている彼らは，1980年代以降，カントリーサイドの小さなコミュニティで協会やクラブ，チャリティといったアソシエーションを立ち上げ，その複数に所属して活動的に過ごしている。20代でフィールドワークをしていた頃の私は，65歳以上の彼らの経験とパワーに圧倒されたものである。ここでは，彼らも含めてカントリーサイドに暮らす人々の生活の一部を紹介したいと思う。

彼らは頻繁にディナー・パーティと呼ばれる夕食会を開き，友人や知人，近所の人を自宅に招く。夕食会は，アソシエーション活動よりプライベートなリラックスした雰囲気で，お互いを知るのにとても役立ち，そこから人々のソーシャルなネットワークが構築されることが多い。食前酒をのみながら互いを紹介しあうと，テーブルにつき，ディナーがはじまる。前菜やスープがでるときもあれば，メイン・ディッシュからはじまる場合もある。伝統的な英国料理としては，ロースト・ビーフにヨークシャー・プディング，温野菜，マッシュポテトにローストポテトといろいろ皿にのせて，上からグレービー・ソースをかける。食べながら，会話がはずみ，デザートになるころには，人々はすっかり打ち解けている。最後に，チーズとワインをのみながら，少し込み入った話や告白話をしたり，男性は食後酒を飲んでさらに突っ込んだ議論をしたりする。夕食会の最後までつき合うのはなかなか大変である。

一方で，現在，この町には少数だが移住してきた若い人々もいる。弁護士や会計士，教師など専門職のインテリ英国人や，町のホテルやレストラン，農場や老人養護施設で働く東欧の人々だ。前者は，カントリーサイドという豊かな環境で子育てをすることを目的にやってきた人々で，後者は職を求めて英国にやってきて，カントリーサイドに来ることになった人々である。後者も小さな子供がいる若いカップルである場合が多い。一見，全く関わりのない両者だが，コミュニティで毎週開かれる赤ちゃんや子供の集まりを通して知り合いになる。さらに，母親も働いている場合が多いので，保育園などで顔を合わせ，子育てや地域情報を交換したりする。私も生後6ヶ月の娘を連れて行ったので，一人育児に悩むことが多かったが，この集まりで悩みを分かち合うことができ，コミュニティの新しい側面を見ることができた。

もちろん，この町に生まれ育った地元の人々も存在している。そのほとんどが労働者階級の彼らは，農業や牧畜，建設業などの地元の産業で生計を立ててきた人々であり，いわば美しいカントリーサイドの町を昔から支えてきた人々である。彼らの中には，17世紀の家に住み自給自足をめざし，週末には教会の鐘をならし，夏にはイングランドの民族ダンスであるモリス・ダンスを踊るという昔ながらの生活を好む人もいれば，現代的で快適な暮らしを好み，週末はパブで仲間とビールを飲み，移住者たちが多いアソシエーションにも参加するという人もいる。しかし，コミュニティでの彼らのソーシャルなネットワークは幼いころからすでに出来上がっているので，その中で助け合い，頻繁にディナー・パーティなどはしない。また，地元の高齢者には，町の歴史協会に協力して古い町の写真を確認したり，町のチャリティが毎月開催する高齢者のお茶会や昼食会に行ったりする。彼らは体調を崩すと，町の老人養護施設に入る場合が多く，そこで働く前述の東欧の人々が彼らを通して町の歴史や人々のつながりを知るきっかけとなっている。

以上，英国カントリーサイドの生活について，そこに暮らす人々を取り上げて雑感的に書いたが，住民間の葛藤や対立，協調といったカントリーサイドのコミュニティのより詳しい側面を知りたい方は，拙著『英国カントリーサイドの民族誌』（明石書店）を一読いただけると幸いだ。

（阪南大学教授・本学非常勤）

千里地理通信　第63号
2010年9月20日　発行
関西大学地理学研究会
〒564-8680 吹田市山手町3丁目3-35
関西大学文学部地理学・地域環境学教室内
tel：06-6368-1121（内線4890：大学院生室）
e-mail：moto@kansai-u.ac.jp
url：http：//www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~moto/KU_Geography/
郵便振替：大阪00970-4-81149